

科目：総合問題（教育学科）

●問題冊子 6 ページ：大問 2

資料③-2 グラフ出典情報内

（誤）出典：内閣府「第 7 回青年意識調査」

( <https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13103332/www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/html/mokuji.html> )

（正）出典：内閣府「第 7 回世界青年意識調査」

( <https://warp.ndl.go.jp/web/20231103032953/www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/html/no2-7-1.html#no2-7-1-f> )

●問題冊子 7 ページ：大問 2

資料④-1 2 行目

資料④-2 グラフ出典情報内

（誤）先進国の子どもの幸福度を形づくるものは何か

（正）先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か

以上

総合問題 (教)  
(問題)  
2026年度

〈2026 R08200015 (総合問題 (教))〉

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
  2. 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
  3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
  4. 記述解答用紙記入上の注意
    - (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
    - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
    - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。
- |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数字見本 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
- (4) 解答に際して、文字数の指定がある場合には、改行で生じる余白および句読点も文字数に含めること。
  - (5) 解答欄に句読点を記入する際には、句読点も1マスに記入すること。
5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
  6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
  7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
  8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
  9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

以下の資料①は、アメリカの教育史家であり、連邦政府の政策立案にも関わったダイアン・ラビッチが著した『偉大なるアメリカ公立学校の死と生―テストと学校選択がいかかに教育をだめにしたのか―』（本図愛実監訳、協同出版、二〇一三年）より抜粋したものである。また、資料②は、ラビッチも評価している書籍（Joel Westheimer, *What Kind of Citizen?: Educating Our Children for the Common Good*, New York: Teachers College Press, 2015.）より抜粋したものである。これらの資料を読み、問一、問二、問三に答えなさい。文字数の指定がある場合は、改行で生じる余白および句読点も文字数に含む。

問一 資料①の傍線に「逆説的」とある。著者が考える、その「逆説」が生じる理由について、資料全体をふまえて、二〇字以内で説明しなさい。

問二 次の（ア）と（イ）に解答しなさい。

（ア） 資料②は「教育に関する神話」について論じている。いかなる「神話」か、四〇字以内で説明しなさい。

（イ） 資料②の下線を日本語にしなさい。

問三 資料①と資料②に共通する主張を、四〇字以内で述べなさい。

資料① ダイアン・ラビッチ著『偉大なるアメリカ公立学校の死と生―テストと学校選択がいかかに教育をだめにしたのか―』（一部抜粋）

過去一世紀以上にわたり、教育改革に携わる者たちは、自らのアイデアを学校で試そうとしてきた。多種多様な改革者と改革が診断と療法を提供してきた。改革者たちは、たいへんな熱意を伴って新たな、教育技術、クラス統制の方法、科学技術、テスト、動機づけ、学校管理の方法を導入し、不完全を正そうとしてきた。どの場合においても、改革者たちは、その解決策が学校に変容をもたらし、学習を楽しいものにし、テストの点数をあげるのに最適であり、学びの楽しさあるいは教育の効率性が求められるなかにあつて時代の先導役になると考えた。ある改善策に次が続き、ある改革の後に次なる改革が生起したが、その度に教員たちが激しい改革疲れに苦しんでいるかどうかには目が向けられなかった。

優れた教育の基本となるものは、教室、家庭、地域社会、文化のなかに見いだされるべきであるが、今日の改革者たちは近道と安易な答えを探し続けてきた。他の改革がそうであったように、あらゆる本質的な教育哲学なき今日の改革は私たちを失望させることになるだろう。遅かれ早かれ、それらが混乱を導き、間違った展開であり、機会の喪失であることが理解されるにちがいない。現在の改革の詳細についてだけでなく、私たちの改革の定義そのものを再検討する時がきている。

読解と数学のみに焦点をあて続け、優れた教育の重要な構成要素である他の教科を軽視するのであれば、アメリカの学校は改善しない。基礎的な技能以上のものを生徒たちに課さない学校からは、高等教育進学や現代の職業に就くことのできる卒業者は送り出せない。新しい科学技術を産出し、科学的な大発見をし、工学的な技術に関し停業をなすといった素養をもつ人材を送り出すこともできない。一般教養を身につける総合的な教育を受けなければ、民主主義社会の市民として責務をはたしていくための素養に欠け、知識、思慮深い議論、理性に基づく意志決定はできない。

テストが測定したことだけに価値をおくのであれば、アメリカの学校は改善しない。今日用いられているテストは生徒の読解と数学の進み具合については有益な情報を提供するが、教育において最も重要なことは測定でき

ない。量化できることが全てではない。代替となる説明を求めたり、質問したり、自分自身について考えたり、異なる考えをもったりするといった能力に比べれば、テストされていることは最終的にはさほど重要なことではない。私たちが大切にしたい、個人重視を放棄するのであれば、これまでの様々な領域における成功に大きく貢献してきた、革新、探究、想像、異議の申し立ては失われていく。

テストが高得点であることは、よい教育の信頼できる指標かもしれないし、そうではないかもしれない。他の重要な目標を排除してテストの得点を過度に強調することは、学習意欲の構成に不可欠な学ぶことが楽しいという気持ちと知識を求めようとする態度を確実に侵食するだろう。練習テストの実施に尋常ではない時間をかければ得点は急上昇するかもしれない。多大な時間が割かれているのだから点数はあがって当然だ。しかし、得点の上昇とともに、若者たちは、時事、自国や他国の政府の構造、経済の原理、科学の原理、国内外の重要な文学作品、芸術の創作や鑑賞、わが国や世界に影響を及ぼしている主要な出来事や理念については、無知になっていくだろう。テストの点数があがったとしても、若者たちは、自らの理解と知識を深めたり、自身の啓発と喜びを讀書に見いだそうとしたりする態度をもたなくなるだろう。そうなることと私たちは、逆説的で最悪の結果になることに気づくかもしれない。つまり、テストの点数があがるほど、教育は悪くなるのである。

では、学校と教育を改善するために、いつ、何をすることができるといえるのか？ いくらでもある。

教育を改善したいと思うなら、まず優れた教育とは何かを共有しなければならぬ。追求するに値する目標をもつべきなのだ。子どもたちの教育に関わる全ての者がなぜ教育を行うのか自問すべきである。十分な教育をうけた人間とは？ 最も重要な知識とは？ 何を期待して子どもたちを学校に通わせるのか？ 卒業するまでに何を学び、何を達成してほしいと考えるのか？

明らかに、私たちは子どもたちに読み書き算ができるようになってほしいと考えている。それらは他の学習を形成していくための基礎的な技能である。しかし、それだけでは十分ではない。私たちは、満足のいく人生を送るための準備をさせたいのだ。自らが世界にはばたき自分自身について考えることができるようになってほしい。性格がよく、生き方、仕事、健康について健全な意思決定ができるようになってほしい。人生に喜びを感じ、勇気とユーモアをもって苦難に立ち向かうようになってほしい。他者との関係のなかで親切であり共感できるようになってほしい。正義と公正に基づく判断力をもってほしい。私たちが直面している国内外の課題を理解してほしい。注意深く問題を考え、異なる考えに耳を傾け、理性的な判断を導くための素養がある、行動力、責任感のある市民になってほしい。理科や数学を学び、現代の課題を理解し問題解決に関わることができるようになってほしい。自国や他国の豊かな芸術的遺産を満喫してほしい。

私たちは、その理想像のもと、カリキュラム—すなわち、何を教えるのか—の質について考えていくべきだ。どの学校においてもよく練られた体系的性と連続性のあるカリキュラムを展開すべきである。カリキュラムは行動計画ではなく、全般的なガイドラインの一揃いである。生徒たちは、歴史、文学、地理、理科、公民、数学、美術、外国語といった一般教養や科学および保健や体育についての学習と練習に規則正しく従事すべきである。

数学や理科の国際評価において、アメリカより上位にある他の国々では、教室で展開される教科を、度を越えて狭めてはいない。日本やフィンランドといった国々は、広く多様性に富む教科において、生徒が何を学ぶべきかを詳細に示した優れたカリキュラムを開発してきた。テストされるからではなく、生徒にとって正しい教育とされ、芸術や外国語を含む、学習に関する主だった分野が教えられている。報酬や制裁がなくとも正しいことがなされている。これらの国々の生徒はテスト教科で他国より秀でていいる。言語を十分に駆使し、重要な考え方を格闘することを教える他の多数の教科によって十分な教育をうけているからだ。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Published by permission of Diane Ravitch c/o Writers Representatives LLC, New York, NY 10011, www.writersreps.com/permissions. All rights reserved.

資料② Joel Westheimer, *What Kind of Citizen?: Educating Our Children for the Common Good*, New York: Teachers College Press, 2015. (一部抜粋)

※ページ下部に出典を追記しております。

※ ここまでのところで四つの myth が論じられている。

This entrenched myth is related to the one above. Educators who seek to teach students to think and to interpret information — skills and habits that are essential for citizens of any democratic nation — are often criticized for having no respect for facts. They are soft, feel-good pedagogues, this kind of critique maintains, who are more interested in process than in knowing the right answers to questions. These tendencies are vilified as unfit for a rigorous standards-based education. Somehow critics have become convinced that those who say they want students to think for themselves simply do not care whether students can read, write, or perform addition or subtraction. This is plainly nonsense. We all want students to learn to read and write. Nobody wants students to be numerically illiterate. When I speak to groups of educators, policymakers, politicians, or advocacy groups, I sometimes ask whether anyone present has been recruited to join the group called “Teachers Against Kids Learning How to Add” or “School Principals in Support of Illiteracy.” You should not be surprised that I have not once found anyone who is aware of these or any similar groups. What I have found is countless educators and parents who want children to know *more than* formulas. They want the knowledge that students acquire to be embedded in the service of something bigger. They want their students to develop the kinds of relationships, attitudes, dispositions, and skills that are necessary for them to engage in democratic and community life.

[注] entrench 固定化する / myth 神話、誤った考え / vilify 中傷する / rigorous 厳格な / numerically 数的な / illiterate 読み書きのできない / advocacy group 利益団体 / recruit 説得して～してもらう / add 足す / principal 校長 / formula 公式、決まりきったやり方 / embed 刻み込む / service 役立つこと / disposition 性格

※ 資料①と②については、抜粋、文章の一部省略、注釈の追加、表記の変更、訳文の変更などを行った。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

From *What Kind of Citizen?: Educating Our Children for the Common Good* by Joel Westheimer. Copyright © 2015 by Teachers College Press. Reprinted by permission of the publisher. All rights reserved.

以下の資料③―1は、小熊英二が著した『社会を変えるには』（講談社、二〇一二年）の一部を抜粋したものである。そのなかで用いている「世界青年意識調査」を資料③―2に示した。また、資料④―1は、ユニセフによる『イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』（日本ユニセフ協会、二〇一二年）についての阿部彩のコメントであり、そこで言及しているデータを資料④―2として示した。これらの資料を読み、次の問四から問六に答えなさい。なお、解答では、改行で生じる余白および句読点も文字数に含む。

問四 資料③―2において、「幸せだ」の回答のみに着目したら、どのような傾向を読み取ることができるか。

一〇〇字以内で述べなさい。

問五 資料③―2における対象国に限定して資料④―2を見たら、どのような傾向を読み取ることができるか。

一〇〇字以内で述べなさい。

問六 資料③―1と資料④―1で、日本の若者や子どもに対する論調が相反するのは、どのような理由によると

推測するか。資料③―2と資料④―2のデータから推測できる事柄を、三つまで箇条書きで、各項目六〇字以内で述べなさい。

資料③―1 小熊英二『社会を変えるには』より抜粋。

ポスト工業化社会になった先進国では、どこでも若年失業率が上がります。不安定な非正規雇用に就いている若者も増えます。一部の中核社員の座を獲得するのは楽ではありませんし、獲得しても競争が続きます。

しかしどの先進国でも、若者の幸福感は高い傾向があります。日本の内閣府が五年ごとに行なっている「世界青年意識調査」でも、一八〜二四歳の「幸せだ」「どちらかといえば幸せだ」という回答の合計は、どの国もだいたい九割でした（二〇〇三年までの数字。二〇〇八年にはこの設問がなくなっています）。

なぜそうなるのかには諸説がありますが、まず若者は生活や仕事の厳しさがまだよくわかっていない、ということがあります。体力もあるし病気もあまりしないし、未来も何とかなると漠然と思っている。いろいろな国で調査しても、若者の幸福感のほうが、働き盛りの三〇〜五〇代より高い、というのはほぼ共通した傾向です。

またいいものが安く買える、自由がある、楽しみが多い、というのも理由になっています。インターネットやテレビゲーム、携帯電話などが新しく出てきましたし、服装や働き方もかつてより自由です。ファッションも音楽も、いいものが安く手に入ります。

たとえば音楽を聞くのも、一九六八年には、LPレコードが二〇〇〇円くらいしました。当時の日本の大卒初任給は三万六〇〇円なので、いまの大卒初任給との対比でいえば、LP一枚が一万三〇〇〇円くらいです。いまなら、一ヵ月八〇〇円でダウンロードし放題のサイトまであります。

一九八〇年代初めには七万円くらいしたダウンコートも、いまでは二〇〇〇円です。昔はレコード会社にしかなかったような録音機器も、いまではもつと高性能のものが数万円で買えますから、非正規雇用のミュージシャンでも簡単に自作のCDが作れます。

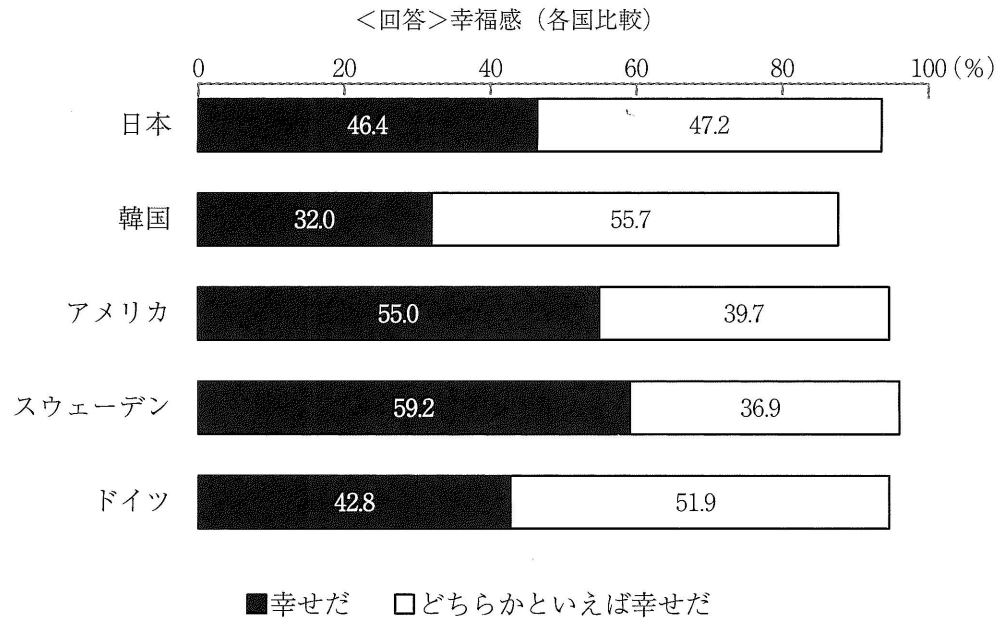
また一八歳から二四歳だと、まだ学生で、働いていない人も数多くいます。消費者でいるにはいい社会ですから、幸福感が高くても不思議ではありません。学校を出てもしばらくは、非正規雇用でも月に十数万円稼いでいれば、けっこう楽しく暮らせます。

とはいうものの、こういう若者は、先行きの展望が明るくありません。ベトナム製の電気製品や、カンボジア

資料③—2 「世界青年意識調査」における若者の幸福感に関する質問と回答

＜質問＞ いろいろ考えてみて、あなたは幸せですか。  
下記から1つを選んで下さい。

1. 幸せだ
2. どちらかといえば幸せだ
3. どちらかといえば幸せでない
4. 幸せでない
5. わからない・無回答



出典：内閣府『第7回青年意識調査』（2003年）

(<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13103332/www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/html/mokuji.html>)

製の服は買えても、家は買えません。工業製品は輸入できても、土地は輸入できないからです。ですから家賃も高く、親元から出られません。

また対人サービスも輸入できません。その中でも、取りかえ可能なコンビニの店員などは安いですが、専門的サービス、たとえば教育サービスは高い。現代の日本では、子ども一人を大学卒業まで育てるのに、安くとも三〇〇万円、高いと六〇〇万円かかるという試算もあります。

そういうわけなので、親元から出られない、結婚できない、子どもが作れない、というかたちになります。勢いで子どもを作って結婚しても、非正規どうしのカップルだったりすると、生活が不安定なうえ、子どもに教育を受けさせられません。

とはいえ、それがわかってくるのは三〇歳過ぎてからだだった、という人も少なからずいます。周りの大人も前時代の感覚で、きれいな服を着てスマートフォンも持っているから、けっこう豊かなんじゃないか、と思っていたりもしますから、よけいにそうなるのかもしれない。

資料④—1 阿部彩「コメント…ユニセフ・イノチェンティ レポートカード16について」(日本ユニセフ協会『イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形づくるものは何か』二〇二一年)より抜粋。

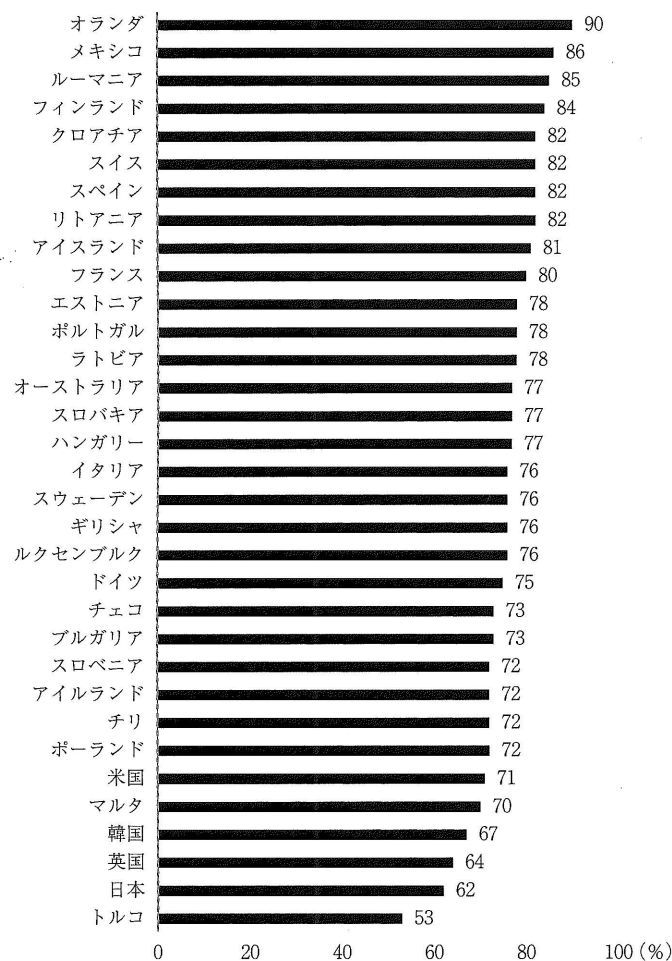
今回のレポートカード16にて、最も注目を集めるのは、日本の子どもの「精神的幸福度」のランキングの低さでしょう。三八カ国中、ワースト二位というところで、とても悲しい結果となりました。これについて、尾木直樹先生は、競争原理による一斉主義や、いじめの問題を指摘なさっており、私も同じ懸念をもっています。しかし、子どもの貧困を長年研究してきた者として、子どもの精神的幸福度や、いじめに遭う確率も、子どもの経済状況に左右されているということを指摘させていただきたいと思います。

確かに、各国の平均を比べる国際比較において、日本の子どもの「生活に満足している」と答えた割合は低い傾向にあります。しかし、日本の中でも、子どもの精神的幸福度には差があります。東京都が二〇一六年に行った「子どもの生活実態調査」によると、中学二年生において、「楽しみにしていることがたくさんある」「生きていても仕方がないと思う」「何をしても楽しい」など答えた割合は、家庭の経済状況によって格差があることが報告されています。また、いじめに遭う確率も、経済状況と関係していることがわかってきました。

本レポートの二つ前のイノチェンティ・レポートカード14では、「格差」についてのランキングも示されていますが、日本は四一カ国中三三位と、決して誇れる順位ではありませんでした。先進諸国の中で、日本は国内での格差が大きい国のひとつであることを改めて認識し、今回の結果を見ていただきたいと思います。

※ 資料④—1での文献の引用に際して、本文中の表記の変更を行った。

資料④—2 生活満足度が高い15歳の子どもの割合



注：生活全般の満足度に関する設問で、0～10のうち6以上を選んだ子どもの割合。

出典：日本ユニセフ協会『イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形づくるものは何か』2021年、p.12)

([https://www.unicef.or.jp/library/pdf/labo\\_rc16j.pdf](https://www.unicef.or.jp/library/pdf/labo_rc16j.pdf))





<2026 R 08200015 (総合問題 (教))>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

採点欄	問一		問二 (ア)		問二 (イ)		問三		問四		問五		問六 1		問六 2		問六 3	
	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-

<2026 R 08200015 (総合問題 (教))>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

## 総合問題 (教)

### (解答用紙)

- 注 意
1. 受験番号 (算用数字)・氏名は指示に従ってただちに所定欄に記入し、それ以外に記入してはならない。
  2. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
  3. 解答はHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで書くこと。
  4. 試験終了時にはこの解答用紙を裏返して机の上に置き、指示を待つこと。
  5. 文字数の指定がある場合には、改行で生じる余白および句読点も文字数に含めること。
  6. 解答欄に句読点を記入する際には、句読点も1マスに記入すること。

1

問一	5	10	15	20

問二	(ア)	5	10	15	20	25	30
	(イ)						

問三	5	10	15	20	25	30

2

問四	5	10	15	20	25	30

問五	5	10	15	20	25	30

問六	1	5	10	15	20	25	30
	2						
	3						

問一	
+	-

問二 (ア)	
+	-

問二 (イ)	
+	-

問三	
+	-

問四	
+	-

問五	
+	-

問六 1	
+	-

問六 2	
+	-

問六 3	
+	-